

# 吉祥寺二葉製菓専門職学校

## 学校関係者評価報告書

(2024 年度)

報告書作成日：2025 年 8 月 31 日

学校法人 二葉総合学園  
吉祥寺二葉製菓専門職学校

## 吉祥寺二葉製菓専門職学校 学校関係者評価委員会報告書について

1987年学校法人古屋学園 二葉製菓学校を開設。2002年には、厚生労働大臣指定 製菓衛生師養成施設に指定を受け製菓衛生師スキルアップ科を開設。2006年には専門課程パティスリーモデーヌ科を新設、2008年には、専門課程パティスリーメティエ科を新設（製菓衛生師スキルアップ科より学科名を変更）。その後、パティスリーモデーヌ科は2008年、パティスリーメティエ科は2010年に「衛生専門士」の称号を付与できる課程として指定を受けました。

2013年に質の向上を目指し学校自己点検・自己評価制度を導入するため、「自己点検及び評価等実施委員会」を組織し、同年6月に2012年度の「自己点検・自己評価」を実施しました。以来、点検・評価結果による学校運営の改善に努めてきましたが、「学校法人古屋学園学校品質向上5ヵ年計画」（2010年に策定）とリンクさせ、より有機的で実効性のあるものとし継続的に実施してきました。

これまでの活用をより適切かつ充実したものとするために、2014年度には本校と関係の深い外部の方々のご意見を学校運営に反映させるべく、委員会を設置し「学校関係者評価委員会」を開催いたしました。多くの率直かつ貴重なご意見をいただき、あらためて「学校関係者評価」の意義と重要性を認識した次第です。

文部科学省が認定する職業実践専門課程が制度化（2013年8月）され、本校においても、2016年度より本課程の認定を受け、従来にも増して高度な知識と技術を身につけた、実践力のある職業人を養成する教育機関として、その社会的責任を果たしてきました。また、2014年度「学校品質向上5ヵ年計画」、2017年度「新世二葉」中期計画（3ヵ年）、2018年度「新世二葉セカンドステージ～2ヵ年計画～」を実施して参りました。さらに、姉妹校の二葉ファッションアカデミー（2022年度末廃校）、二葉栄養専門学校（2022年4月より吉祥寺二葉栄養調理専門職学校）との三校一元化を推進する中で、2020年4月より「FUTABA中期計画（3ヵ年）」を実施して参りました。

2022年4月1日より、学校法人 二葉総合学園 吉祥寺二葉製菓専門職学校に校名変更を行い、2023年度4月からは、新たな「FUTABA中期計画（3ヵ年）」を策定し、現在取り組んでおります。建学の理念である「涵養の精神と職業人としての自立」の具現化、知識と技術のバランスのとれた質の向上及び質の保証などを掲げ、教職員が一丸となって取り組んでおります。

この度、広く関係者の評価を問い、ご意見を頂戴いたしたく2024年度「学校関係者評価委員会」の報告書を公表いたします。

2025年8月31日

学校法人 二葉総合学園

吉祥寺二葉製菓専門職学校

学校長 小川 万紀子

## 学校関係者評価委員ご紹介

### <業界関係・企業>

株式会社コロンバン                      代表取締役社長                      小澤 俊文 氏

### <専修学校団体>

日本菓子教育センター                      顧問理事                      高井 和明 氏

### <卒業生代表>

PRESQUILE chocolaterie                      小抜 知博 氏

### <保護者代表>

吉原 昌江 氏

## 学内担当者

学校法人二葉総合学園                      理事長                      手嶋 達也

学校法人二葉総合学園                      事務局長                      寺島 秀親

吉祥寺二葉製菓専門職学校                      校長                      小川 万紀子

副校長                      永宗 喜昭

広報室 室長                      中村 佳奈美

製菓製パン科 主任                      志村 裕子

教務課 主事                      石原 元也

## 学校関係者評価委員会 次第

- 開催日時 2025年8月4日 10:00~12:00
- 開催形式 対面にて開催
- 出席者 学校関係者評価委員会4名、学内担当者7名（欠席者なし）
- 議 題 1) 2024年度 吉祥寺二葉製菓専門職学校 自己点検・自己評価 報告  
2) 報告を受けての意見交換、検証

### 次 第

1. 開 会
2. 学校法人二葉総合学園 理事長 手嶋 達也 挨拶
3. 吉祥寺二葉製菓専門職学校 校長 小川 万紀子 挨拶
4. 出席者紹介
5. 議事
6. 意見交換
7. 閉 会

## 基準毎の評価

### 基準 1 教育理念・目的・育成人材像等

建学の理念である「涵養の精神と職業人としての自立」のもと

- ・ 高度な専門知識及び技術の習得
- ・ 徹底した実践教育
- ・ 人間性豊かな明晰なる感性の涵養

現在は、創立90周年に向けて、変化する社会に適応し、より充実した学びの場を提供するため、新学科の設立を視野に入れた学科の再編成等、新たな方向性を検討することとなった。入学後の進路変更のニーズに対応し、転科制度を積極的に進めている

<2024 年度目標>

- ・ 創立 90 周年記念事業準備委員会立ち上げ
- ・ VR 活用実験開始
- ・ 教職員向け基礎講座・セミナーの体系的取組
- ・ ガバナンス改革
- ・ 個々のパーパスの確立と浸透
- ・ 何をするために二葉に入職したのか？何を目標としているのか？

### 基準 2 学校運営

- ・ 学校運営は明確な組織化と職務分掌に基づき実行されている。さらに、組織運営および意思決定の実効性をより高めるべく、今後一層の工夫と努力が必要である
- ・ 2019 年度から高等教育無償化確認校となり、入学しやすい学校と周知し、より積極的に学生支援を行っている
- ・ 2022 年度には4号館実習室師範デモ用大理石付コールドテーブル2台、実習室内学生用冷蔵ショーケース2台の入替工事を実施し、実習作業面、衛生面の改善をおこない、より優れた環境にて製菓製パン実習を展開している

### 基準 3 教育活動

- ・ 厳しい経済状況の中、専修学校が生き残っていく為には即戦力となる高度な職業実践的教育の提供が必要である。それには提供側の教員にその意識とスキルを持ち合わせる事が肝要であり、本年度は、学校行事等の多くを教職員が自ら考え企画・実践をすることを進め、常に新しいことにチャレンジするトライアル&エラーの精神が出来始めている
- ・ 校長による教員の専門性や講義力・実習力の把握・評価を適宜行っており、さらに向上させるための研修会・講習会等の参加を積極的に行っている

- 教職員のスキルアップに関してはジャパンケーキショー東京など、業界のコンテストに参加をすることにより、確実にスキルアップに繋がり授業にも反映されている
- 取得できる国家資格は「製菓衛生師」

#### 基準 4 教育成果

本校についての教育成果の数値指標は、次の 4 点であると考え

- 進路決定率及び就職率は 100%であった
- 製菓衛生師国家試験合格率は、全員合格の 100%であった
- 中途退学率は昨年度より低下はしたが、今後においては課題が残る
- 製菓外部コンテスト学生部門での、受賞者はいなかった。学園祭で 1 号館に出展作品を展示し、多数の方に認知をいただいた

#### 基準 5 学生支援

- 就職を中心とした進路支援では、専任職員を配し、学生の適性を見極め個別の進路支援を行い、卒業生に対しても相談の際には対応している。又、卒業生に対しては転職相談や仕事における技術的相談等も同様に対応
- 学習支援においては、通常授業の補講を実施
- 卒業年度対象の労働条件や年金・身だしなみセミナーを開講
- 生活面では担任が面談や生活指導を行う体制を敷いており、バックアップ体制として教員全体で状況に応じて対応
- 経済的な相談窓口として担当職員が対応し、奨学金等の支援を実施している
- 学費納入に関する相談まで、個別に素早い対応を行っている
- 2019 年高等教育の無償化の対象機関と承認され学生の支援となっている

#### 基準 6 教育環境

- 学校設備の整備は教育効果を考え、年間施設設備予算計画により改善を行い、授業に専念できる環境作りを行っている
- 前年度計画していた三鷹店舗付実習室の天井壁の修理、4 号館エレベータ改修工事及び、エアコンの取り換え工事、太陽光発電パネルの設置工事を年間設備計画通りに行った
- 感染症対策の一環として通常の感染対策のほかに校内全教室定期噴霧消毒（毎月 1 回）を実施し、学生・教職員の感染防止に努めた
- 防災に関しては、教職員で防災組織を構成し、防災計画を基に安心・安全な教育環境の提供に努めている（年度別に防災計画を管轄消防署へ提出）

- ・消防設備定期点検の関しては自動火災報知機・誘導灯・避難器具・消火器の点検を富士防災工業株式会社にて実施している

### 基準 7 学生の募集と受け入れ

- ・学生募集は年次計画に基づき実施しており、学校訪問先と頻度については過去実績等から精査し、地域・学校を絞り込むことにより効率化を図って募集をしている
- ・また児童や一般向けの公開講座を実施し、フード分野への興味関心を育む活動も積極的に実施している
- ・入学選考及び学納金は適切かつ妥当なものとなっている
- ・年間オープンキャンパスを実施し、吉祥寺二葉製菓専門職学校の特色やフード分野について説明している。また毎月オンライン個別相談会・夜間個別相談会・日曜相談会も実施し遠隔地や時間が取れない方へも十分な説明ができるようになっている。入学を検討する方々に本校の教育内容を十分理解していただくよう心掛けている

### 基準 8 財務

- ・教育活動収支  
学生数の減少に伴い教育活動収入は昨年度比減少  
教育活動支出（人件費・教育研究経費・管理経費）は昨年度比減少
- ・教育活動外収支  
配当を重視した資産運用が伸長
- ・借入金利息の減少により昨年度比増加
- ・経常収支 昨年度比減少
- ・特別収支 受取利息・配当を重視した資産運用により昨年度比減少  
基本金組入前当年度収支差額は昨年度比減少
- ・借入金の返済は2025年度末で終了することから、財務強化は進む傾向にあるものの、肝心の学生数が減少していることが問題

### 基準 9 法令等の遵守

- ・組織において、法務に関する事項、行政指導、諸官庁からの通知等は明示管理しており、設置基準についても遵守し適切に運営をしている
- ・『個人情報保護法』は継続的に啓発するとともに、『個人情報保護規程』に従い個人情報の取り扱いには特に注意している。
- ・2009年度から「自己点検・自己評価」を実施し、その結果を公開するとともに問題等の改善に努めている。今後は、より積極的な公開・情報提供を行う

- ・2015年度より学校医、産業医を委嘱契約し、引き続き学生ならびに教職員の安全衛生に努めている

#### 基準 10 社会貢献

- ・行政機関・学校・業界団体や地域との連携・交流は積極的に行っており、地元の行政機関（武蔵野市観光課）の要請による講習会など、地元企業からの技術指導依頼等、積極的に協力を行い地域社会との連携には特に配慮を行っている
- ・SDGs（フードロスの削減・環境問題・衛生問題・エネルギー問題等）の取り組みについて学生・教職員に対する啓蒙活動は行っている。また、環境型社会の実現を目指し、二葉総合学園3号館に生ごみ処理機を導入している
- ・学生のボランティア活動については、活動内容や活動時間の確保・安全問題等検討課題があり、積極的な奨励・支援体制等、今後活動の可能性について検討を進めていく

## 議事進行

### 1) 開会（永宗）

- ①副校長にて議事進行。開会の挨拶。酷暑の中、参加者への感謝と会議の趣旨（資料）説明。
- ②次第に沿って2024年度自己点検・自己評価報告書を基に記載責任者より報告するので、報告後忌憚のない意見の依頼あり。

### 2) 理事長挨拶

- ①専門学校 二葉製菓学校（現 吉祥寺二葉製菓専門職学校）元校長 加藤 信先生の逝去報告
- ②次年度の学校関係者評価委員会の開催に向けて、1号館での開催提案あり。

### 3) 校長挨拶

- ①学校関係者評価委員会の目的、趣旨説明あり（自己評価に対する説明責任、特色のある学校運営→それを達成するための各種助言等頂き結果を公表することにより、客観性その透明性を確保する）。
- ②前年度の2023年度の評価委員会では、それまでの過大評価に関する反省点の報告、その後、教職員体制の見直しや新カリキュラムの導入、各種既定の整備等を実施した旨報告。
- ③90周年記念事業に向けた準備状況、今後の展望を共有した。

#### 4) 出席者紹介

- ①評価委員、校長、副校長、事務局、教職員などが自己紹介。
- ②各自の専門分野や学校との関わりを簡潔に説明。

## 自己点検・自己報告書の基準別説明

### 1) 基準1 教育理念・目的・育成人材等（小川）

- ①「建学の理念」「建学の精神」等概要説明
- ②2024年度目標「90周年記念事業準備委員会」「VR活用」「教職員向けセミナー等の取組」等説明
- ③点検小項目（1-1-1～1-3-6）までは大きな変更はなし

### 2) 基準2 学校運営（小川・寺島）

- ①組織運営および意思決定の実効性を高めるべく人材育成の必要性を強調。適材適所の配置が必要。（小川）
- ②2-4-3を進み具合3→4に変更、規程等の整備を進め対応したため1ランク点検の進み具合を上げた。（小川）
- ③2-8-17を3→4に変更、完全ではないが人材の確保・育成は進めているため修正。（小川）
- ④2-7人事面については2年前より着手、コンピテンシー評価の導入等により昇給制度も確立しつつある。ただし、この点に関しては完成形を迎えることはなく、進み具合を4としている。（寺島）

### 3) 基準3 教育活動（永宗）

- ①高度な職業実践教育提供のためには、提供する教職員側に意識とスキルが必要である。自ら考え、企画・実践することなどが進行している。
- ②企業連携等による外部での製造販売にて実務研修を行っている。
- ③専門性、必要条件を備えた教員確保のため、研修会等への参加も積極的に推奨している。また、そのスキルアップに際しては、業界コンテストなどへの参加も進めている。
- ④3-12の各項目に関しては3→4へ変更、理由としてはカリキュラム編成に関して業界や教育課程編成委員会等と連携が取れているため。

## 4) 基準4 教育成果（永宗）

- ①就職率、製菓衛生師国家試験合格率は両方とも100%であった。
- ②中途退学者率は6.8%と前年度よりは低下した。改善理由は学生とのコミュニケーション強化、保健師の配置等、各種連携によるものと考えられる。
- ③4-19 資格取得に関しては、改善の余地あり（民間資格の取得など）。
- ④4-21-9 外部コンテスト等での評価については入賞実績あるため3→5とした。

## 5) 基準5 学生支援（廣江 代理として志村が報告）

- ①就職に関しては就職支援室と連携し、体制が整備されている。
- ②学生相談に関する体制は保健師の配置によるメンタルケア等の充実により5-23-5～7は3→5に評価が上がった。
- ③経済的側面に対する支援では、修学支援制度の紹介、納入方法の変更等個別に対応をしている。

## 6) 基準6 教育環境（志村）

- ①エレベータの改修工事、エアコンの交換、三鷹実習室の修理等が終了し、教育環境整備を実施できた。
- ②6-32-8は防火責任者退職による後任の配置に不備があったが、配置終了したため4→5とした。
- ③防災訓練実施状況は年間3回、問題なく実施されている。
- ④地下女子更衣室の浸水に対する工事を現在実施中、今年度（2025年度）内には完全復旧予定。

## 7) 基準7 学生募集と受入れ（中村）

- ①年間25回のオープンキャンパス、月1回のナイトオープンキャンパス、個別相談を強化し丁寧に対応している。
- ②募集用パンフレットも従来とはスタイルを変更し（在校生からアンケートを取りスクールライフ、カリキュラム、活躍する卒業生を掲載）対応している。同時に紙ベース以外にもデジタルパンフも推進中。就職状況冊子も更新している。
- ③コロナ禍以降はZoom等での対応も継続していたが、近年は対面式で対応している。
- ④入学者の1/3以上が奨学金や就学支援制度を利用しており、入学前の個別相談で学費についての説明を徹底し、退学に繋がらないように保護者にも周知している。

## 8) 基準8 財務（寺島）

- ①財務情報に関しては、学園ホームページに掲載済み。
- ②学校会計（i 教育活動収支 ii 教育活動害収支 iii 経常収支 iv 特別収支 v 基本金組入前当年度収支差額）等と黒字決算の説明（資産運用の変更含む）。
- ③補助金活用による設備投資等（エアコンと太陽光パネルの組合せ等）の説明。

## 9) 基準9 法令等の遵守（小川）

- ①特に変更はしていない。
- ②産業医、学校医、保健師を配置し健康管理体制は充実させている。
- ③9-43-7、9-44-10の点検度合いを上げられない理由としては、製菓校においては周知徹底がまだ不十分であるためであり、今後の課題としたい。

## 10) 基準10 社会貢献（永宗）

- ①講習会や技術指導を含め、地域連携は積極的に実施している。
- ②SDGsの啓蒙活動は行っており、生ごみ処理機の導入による環境型社会への寄与も実施している。
- ③学生ボランティア活動に関しては支援体制整備が今後の課題である。

## 意見交換・質疑応答

- ①質疑：定員確保が最も大変と考えられるが、いかがか？（高井氏）

応答：魅力ある学校づくり、定員割れへの対応は業界とも連携して、考えていく課題と思われる。（手嶋）

- ②学費・材料費の高騰と経営への影響。（手嶋）

応答：現在は内部努力にて学費据え置きにて対応してきたが、近年の各種価格高騰で困難なため、次年度より学費を上げて対応する。（手嶋）

③意見：学校として、外部への発信力が少し弱いように感じられる。(高井氏)

応答：発信は強化する。実際に各種コンテスト等にて受賞した場合（教職員や在校生、卒業生）、目指すべき人物の一環として掲載していき、ホームページ等も強化したい。  
(小川)

④質疑：オープンキャンパスが年間 25 回実施されているが、1 回あたりの参加者数（目標）、入学者率等はどうなっているか？(小抜氏)

応答：時期によって対象者が異なる（夏までは高校 3 年生、9 月以降は 1～2 年生）旨説明あり（※広報追記、対象学年では参加者数に対して 60%は目指したい）。近年の傾向として重要なことは学費問題であり、参加者も 3 校程度の比較材料を持つため、個別対応をしっかりとしないと入学へは結び付かない。現在、今後もそこを重視していく。(中村)

⑤質疑：学校の情報発信として SNS 等は何なことをしているか？(小抜氏)

応答：今年度より新たな試みとして instagram 広告以外、web 媒体などいくつかの会社と新規契約し発信している。その他業者に依頼して広報が訪問できない地方での配布会も実施した。(中村)

⑥意見：大学を卒業し会社員になるという構図は崩れつつあり、業務によっては AI が代行し人が必要なくなる、その中で専門学校の役割としては個人が生き残る知恵と技術を修得させ、目指すべき人物像を作り、価値の創造をすることが必至ではないか？  
(小澤氏)

応答：社会人の入学奨励は重要と考えており、他校との差別化としては有効なものと考えている。ただし、そこにばかり注視すると全体のバランス（現役高校生とのレベル差等）が壊れる場合もあり注意したい。(小川)

⑦意見：学校を選ぶ際、検索して最初に出てくるというのは後々印象深く残るものと思われる。ホームページ等の重要性を痛感しているので頑張りたい(吉原氏)

⑧質疑：他の高等教育機関との単位互換について進捗していないようだが、理由とその効果は？(小抜氏)

応答：進捗としては停滞している。現在、単位制への移行も検討中のため、この点が整備されれば進捗すると考えられ、努力していきたい。(永宗)

## 閉 会

いただきました多くのご意見を反映し、実行できるよう努力していきたい。

以上